

## 学生サポートによる小中学校のホームページの作成・運用支援

—Open CMS ソフトウェア “Plone” を利用した統一仕様の導入—

杉本光司

都留文科大学・情報センター

tsgmt@tsuru.ac.jp

**概要：**地域連携支援プログラムの中で、地域内小中学校のホームページに対しての作成・運用支援をすることになった。その現状は、何年間も更新のされないままというのがほとんどであった。そこで、オープン CMS ソフトウェアとして定評のある“Plone”を利用した統一仕様を採用することにした。システム作成には学生も日常的に参加することにより、教職志望の多い本学の学生にとっても効果的であった取り組みの現状報告を行う。

### 1. はじめに

都留文科大学では地域貢献事業の一つとして、平成 10 年に市内小中学校の ISDN 回線によるインターネット接続のアクセスポイントとして本学の設備を開放したことを機に、小学校・中学校の情報教育担当者、都留市教育委員会、都留市教育研修センター職員で構成される「都留市情報教育研究会」に、大学情報センターの教員・技術担当職員が参加することになった。同時に大学と市内小中学校が協力した新しい地域情報教育ネットワークシステムを構築して様々な取組をしてみようという提案が行われ、研究・討議を続けてきた。

これまでは、技術研修会の開催や大学と小中学校間における遠隔授業の実施を中心に取り組んできた([1])。

今回は、都留市情報教育研究会で討議されてきた課題の中から、各学校での公式ホームページの運用に対しての支援への要望に対して実施した地域連携事業の事例の一つとして報告するものである。

### 2. 背景

まず、ホームページの運用支援要請に対して、各学校の実態調査を、平成 21 年度の、『情報メディア演習Ⅰ及びⅡ』の授業の中で、市内小中学校 11 校（小学校：8、中学校：3）の内、ホームページを開設している 8 校（小学校：6、中学校：2）で実施した。

この調査の中で、特に注目されたことは、数年前から一度も更新されていない学校（小学校：5、中学校：1）がほとんどという状況であり、引き続き日常的に更新を行ってホームページの管理・運用を行っている学校は、

小学校 1 校、中学校 1 校という状況であった。

このことは以前からも多くの教育関係者、保護者や市議会からも指摘されており、「都留市情報教育研究会」においても、度々検討されていた。しかし、ほんの数年前、競って公式ホームページを立ち上げた頃の熱意は、日々変化する学校の状況の中で、次第に薄れ、負担にさえ感じてしまっているのが実情であり、中には、閉鎖してしまった学校もあった。

特に、ホームページ作成に対する知識のある教員の異動や、ソフトウェア環境の変化等の理由から、更新されない日々が続いてしまっているというのが、大きな理由であると感じられた。

このような状況の中で、「都留市情報教育研究会」に対して、『市内小中学校統一仕様によるホームページの作成と運用』を提案し、説明会を実施した。一方、教育委員会や教育研修センターの担当者とも協議を行い、まず、数校の新しい仕様によるホームページを立ち上げることによって、市内全校に展開して行くことを目標とすることを決定した。

### 3. 統一仕様の作成

先ず、今回の取り組みに当たり、教育委員会側には予算的な措置を求めず、これまで通り、大学内のサーバーを開放することにより実施することを前提に進めることとした。

これまでの調査により判明した、ホームページが更新されなくなってしまう最大原因である、一部の人に集中してしまった運営業務の分散化を考慮し、新システムは CMS を採用することとし、そのソフトウェアについて

ての検討を行った。

そこで、以前から「情報メディア演習」の授業で使用していた、オープンソースの CMS 「Plone」について検討した結果、

- ①Web ブラウザを使ってほとんどの機能を利用できる。
  - ②「スキン」と呼ばれる基本デザインの教育機関向け“Schools Skin”が利用できる。
  - ③デザインカスタマイズがし易い。
  - ④ワークフローの採用。
  - ⑤使用事例の増加。
  - ⑥国内の中心的コミュニティである、「Plone 研究会」での支援が受けやすい。
- 等の利点に注目し採用することにした。



Schools Skin のデフォルト画面

今回の統一仕様の採用には、もう一つの理由である、担当者の異動後への対応も考慮した。市内全ての小中学校が同じシステムで運営されていることにより、教員の市内間での異動においても、その知識が継承されていくことである。

#### 4. 準備

事前に実施した現況調査により、開設されていた8校のホームページについては、基本的には、各学校の担当者が中心となって作成することにしたが、頻繁な更新作業によって運営されていた1校については、学生の支援によって、現行のコンテンツを全て移行することとした。そのために、改めて“Plone”講習会を2回実施した。講師は『Plone による簡単 Web コンテンツ管理』の著者の一人である(株)CMSコミュニケーションズの永井孝氏にお願いした。参加者は「情報メディア演習Ⅰ・Ⅱ」の受講生をはじめ、情報センター職員等が受講した。

また、同時に、現状の理解ということで、開設されている個々の小中学校のホームペー

ジの階層構造分析を実施した。

更に、情報センターの教職員が中心となって、小中学校の担当者に大学に来てもらったり、各学校に出向いて行き、個別にヒアリングを行い、同時に“Plone”に関する研修、カスタマイズの方法、写真や記事のアップロードの仕方等の指導を行った。

ホームページを持たない二つの小学校の内、一つの小学校では独自に作成することが可能であったが、小規模校のため、新たな担当者を決めることが難しいが、公式ページを立ち上げたいとの希望が強い他の一校に対しては、全面的な支援によって作成することを提案し作成の許可を得た。

このような関係者の努力により、当初の計画であった数校の立ち上げから、11校に拡大するという予定は、当初より10校のホームページ作成というスタートとなった。

#### 5. 地域情報教育への支援

今回のホームページ作成支援の開始により、私たちが目指す「地域情報教育」における活動の指針として、次の三つを掲げることとなった。これらの活動に対しては、私とともに、情報センタースタッフ、「情報メディア演習Ⅰ」・「情報メディア演習Ⅱ」の受講生との協同事業として取り組んでいる。

- (1) 小中学校への情報リテラシー・ネットワーク・セキュリティ教育支援
  - ・都留市情報教育研究委員会(教育委員会、全小中学校情報教育担当者)への参加
  - ・ICT を利用した学校業務に関する研修会の開催
  - ・それぞれの学校の情報教育への支援
- (2) 遠隔授業の実施と支援
  - ・大学と小中学校間での遠隔授業の実施
  - ・小中学校間の交流プログラムの支援
  - ・e-learning への取り組み
- (3) ホームページ作成と運用における支援
  - ・小中学校の公式ホームページの作成支援
  - ・定期的な更新に関わる運用支援
  - ・小中学校ホームページ作成担当者への研修支援

#### 6. Plone による新しいホームページの作成

今回の新しいシステム運用を実施するにあたり、ドメイン名についても、大学との分離を明確にするため、大学の属性型ドメイン名

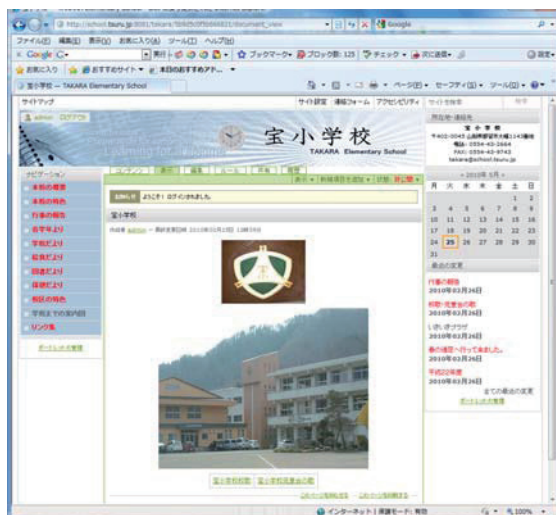
“tsuru.ac.jp”は使わず、既に登録してある汎用型の“tsuru.jp”を採用することにし、“school.tsuru.jp”を設定し、各小中学校担当者用のメールアドレスも同様のドメイン名で発行することにした。

## 1) 現行からの移植により作成

新しいホームページを作成するにあたり、これまでも開設していた学校でも、更新されないままの状況である学校が多かったため、現行からのコンテンツ移植を希望する学校は1校だけであった。この移植作業は7名の学生が10日間で対応して作成した。



宝小学校の旧ホームページ



新しい宝小学校のホームページ

## 2) “SchoolsSkin”のカスタマイズ

これまで開設していた7校では、“SchoolsSkin”を利用して、これまでのメニューを継続することを目標に、基本的なひな形を作成することから始めたが、新たなメニ

ューやコンテンツを作成することは見受けられなかった。

この中で、一番独自性が出せると判断されたトップページの写真は数枚を登録しておくことにより、アクセスする度に替わるため、それぞれの学校独自の写真を用意して登録した。また、子どもたちが写っている写真への対応についても、顔がわかる学校、遠景に統一した学校、顔の部分に処理を施した学校等、それぞれの学校の取り決めで掲載した。



都留第二中学校のホームページ

## 3) 新規作成

4項でも説明したが、これまでホームページを開設していなかった3校の内、1中学校は、今回の取り組みでは参加しないことになったが、1つの小学校では、個別の研修後に独自に作成することが出来た。しかし、もう1校は小規模校ではあるものの、本学の附属小学校でもあるため、情報センター職員や、学生による支援によって、校長先生を中心としたチームと何回かの打ち合わせの後に、次のようなホームページを立ち上げることができた。



都留文科大学附属小学校のホームページ

4) 全校のホームページの立ち上げを目標に  
学生が参加した小中学校のホームページについての作成・運用プログラムについては、以前より「山梨日々新聞」社から取材申し込みが寄せられていたため、平成 21 年 10 月の後期授業から取材を受けることにした。担当記者からは 3 回にわたり、学内での『情報メディア演習Ⅱ』の授業だけでなく、大学の児童文化研究部の学生の協力による、附属小学校との「影絵を使った演劇への指導」をテーマに実施した遠隔授業における現場での記事作成状況まで丁寧な取材を受け、平成 22 年 3 月 3 日付本紙の大学生活動紹介面『ときめきゾーン・キャンパス』に大きく取り上げられた。

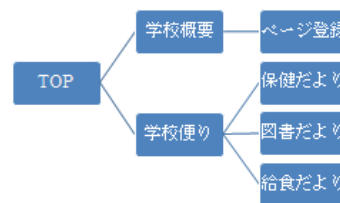
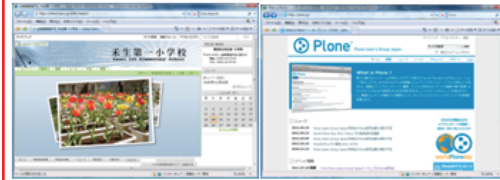


山梨日々新聞：ときめきゾーン・キャンパス[2]

今回の取り組みでは、市内 11 校の内 10 校のホームページを運用することができたが、それぞれの学校での参加体制はというと、まだまだ CMS を採用した目的とは遠く、一部の者による特別な作業と捉えられていることは否定できない。そこで、夏休み期間中の平成 23 年 8 月 26 日に、全小中学校の情報教育担当者と視聴覚教育担当者向けに、『OpenCMS ソフトウェア“Plone”を利用したホームページの運用』の研修会を開催した。この研修会で使用するテキストについては、新たなホームページを作成した前年度の受講生からの引き継ぎによって継承されていた、「より分かり易い手引書を作成しよう」ということで、日常の運用において、頻繁に行われる作業や、これまでの過程の中から質問が多く寄せられた作業を中心に、細やかなステップ毎に画像を使ったテキストを作成した。

#### OpenCMS ソフトウェア“Plone”を利用したホームページの運用

— 都留市内小中学校への支援 —



都留文科大学 情報センター

研修会で使用したテキスト

## 7. まとめ

今年の夏休みの研修会後に、これまで閉鎖したままであった一つの中学校での開設が決まり、公開に向けて作業中である。これによって、統一仕様による市内全小中学校のホームページが運用されることとなった。

今後は、大学および学生が、作成・運営補助や取材活動、また“Plone”の研修等を通して日常的・継続的に小中学校との連携を維持することが重要であると考えます。

現在の各学校のホームページも不十分な状態であり、一方、各学校からは大学生の日常的な運営作業への参加を熱望されている状況である。これまでの過程の中での大きな課題は、学校による児童・生徒の個人情報に対する考え方の相違であった。そこで、今後は小中学校が個々に対応するのではなく、教育委員会も含めて、「ホームページ作成・運営に関わるガイダンス」を取り決めることによって、個人情報の公開に関する統一的な見解を持って運営することを提示していきたい。

## [参考文献]

- ・[1]杉本光司、「地域情報教育への新しい取り組み」、平成 17 年度情報処理教育研究集会講演論文集、385 ページ、平成 17 年 11 月 5 日
- ・[2]山梨日々新聞 平成 22 年 3 月 3 日付け『ときめきゾーン・キャンパス』より